

おひ 大火山に太陽光発電所を建設します

▶6月21日に行われた資本参加についての記者会見で、青木代表取締役と握手を交わす菅野村長(左)



村は、村6月議会において、太陽光発電の資本参加に関する予算の可決を受け、事業主体となる「いたてまでいな太陽光発電株式会社(青木宏明代表取締役)」に対し出

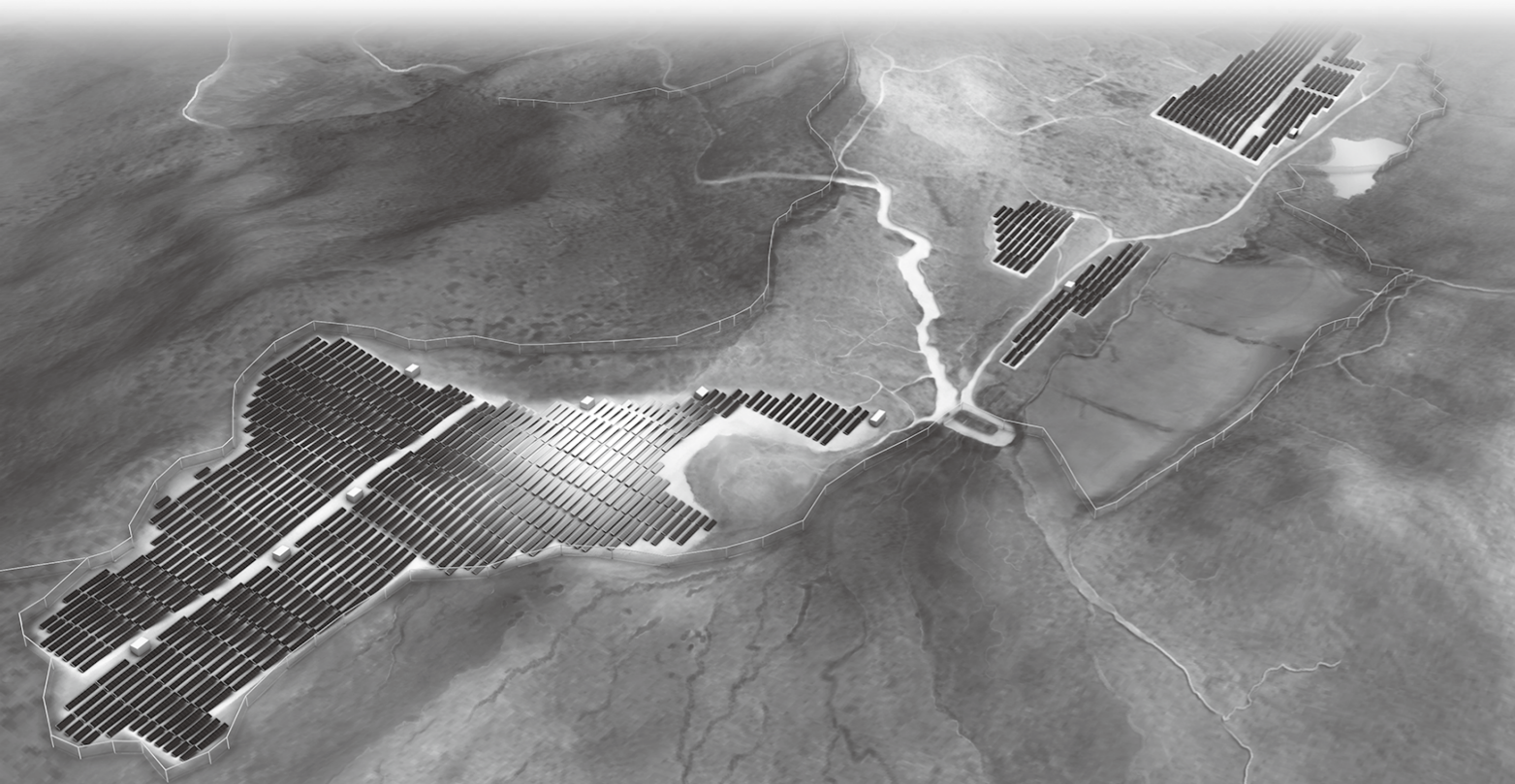
資を行うこととなりました。「いたてまでいな太陽光発電株式会社」は、東光電気工事株式会社との共同出資となり、村が4000万円、東光電気工事株式会社が5000万円出資します。

村の復興計画で検討してきた再生可能エネルギーの導入を具体化するために、村では東光電気工事株式会社と共同出資し、「村の復興のシンボル」として出力10メガワットの太陽光発電所を建設します。運転は平成28年4月を目指しています。

建設用地は、村有地の大火山牧草地のおよそ14ヘクタールで、10メガワット(1万キロワット)の太陽光発電所を建設します。

発電した電気は、「再生可能エネルギー」の固定価格買い取り制度に基づき、東北電力株式会社が20年にわたり全量買い取ります。また、買い取り期間の終了や、パネルの劣化に伴い事業が終了する際には、設備を撤収することまでを事業計画に含んでいます。

建設は、用地の除染終了後の平成26年4月に着工し、平成28年4月からの運転を目指しています。



▲大火山地区に建設する太陽光発電所の完成イメージ

村外子育て拠点の整備が始まります

村では、福島市飯野町に村外子育て拠点となる災害公営住宅の建設を進めています。今回整備するのは、災害公営住宅23戸と子育て世代の交流拠点となる集会所です。建設が開始される災害公営住宅についてお知らせします。

▲福島市飯野町に建設する村外子育て拠点のイメージ図



村の復興計画では、村に戻りたくとも戻れない子育て世代のために、村外で安心して子どもを育てられる環境を整えた「村外子育て拠点」の整備を重点事業に掲げています。これは、福島市や伊達市などの避難先から、片道1時間余りかけて村の幼稚園や小中学校へ通学している子どもやその家庭の負担軽減のために整備するものです。今回整備するのは「飯館村災害公営住宅飯野町団地(仮称)」。戸建てタイプが9戸と2戸連棟タイプが14戸の、合わせて23戸です。



▲敷地内の除染が始まった建設予定地(福島市飯野町)

戸建てタイプは5〜6人の世帯を想定した2階建ての3LDKで、2戸連棟タイプは4〜5人の世帯を想定したメゾンネット(2階建て)タイプの2LDKとなります。また、入居者の子育て支援や飯野町住民の方との交流も想定した2階建ての集会所が整備されます。この整備により、避難により離ればなれになった家族が一緒に居住した

村の復興計画では、村に戻りたくとも戻れない子育て世代のために、村外で安心して子どもを育てられる環境を整えた「村外子育て拠点」の整備を重点事業に掲げています。これは、福島市や伊達市などの避難先から、片道1時間余りかけて村の幼稚園や小中学校へ通学している子どもやその家庭の負担軽減のために整備するものです。今回整備するのは「飯館村災害公営住宅飯野町団地(仮称)」。戸建てタイプが9戸と2戸連棟タイプが14戸の、合わせて23戸です。

いという村民の意向や、隣家と近接する現在の避難状況に対するストレスを軽減させることも目指しています。

今後、敷地内の除染を行った後、10月頃から工事に着手します。